

日籍校友

「台湾・国立花蓮女子高級中学

創立九十周年記念に招待」



よしむら かずなり
吉村 和就

グローバルウォータージェン 代表
国連テクニカルアドバイザー
水の安全保障戦略機構技術普及委員長
日本水フォーラム 理事

世界各国が経済格差の拡がりやテロの恐怖という激動する時を迎えている。今回は極めて個人的な話題であるが、百年の時を超えても深い心のつながりのある台湾と日本の心温まる出来事を紹介したい。筆者は今年（二〇一七年）五月に台湾の東部に位置する花蓮市の国立花蓮女子高級中学（日本統治時代の名称・花蓮高女）の創立九十周年記念祝賀会に招待された。なぜ招待されたのか。

昨年十一月、筆者の祖父・吉村佐平が百年前、日本統治時代に台湾・花蓮で設立した「花蓮二信」（信用金庫）の創立百周年記念行事に創立者の孫として招待され、その祝賀会の模様が台湾のテレビや地元新聞にて報道されたのが契機であった。その報道を見た花蓮高女の張教師が、フェイスブックで「吉村さんのお母さんの

卒業した花蓮高女は、今年創立九十周年を迎えますので、ぜひ式典に参列を……」と連絡してきたのがきっかけであった。夫婦で参列することを決めた。

一・花蓮高女の歴史

昭和二年日本統治時代に「花蓮港高等女学校」として開校、当時は日本人が主で台湾の学生は、わずか一％であった。戦後の昭和二十年（一九四五年）花蓮女子学校と改名、翌年「台湾省立花蓮女子中学」そして二〇〇〇年に現在の「国立花蓮女子高級中学」となった。この間多くの女史を輩出し台湾の経済・文化・教育を支えている。卒業生の九五％以上は大学に進学し、そのうち四〇％以上は国立大学へ進学している。典型的な進学校であるが、語学（英語、日本語）、数学、物理、芸術（特に原住民の踊りや音楽の継承）にも力を入れ、二〇一〇年、二〇一三年には同国教育省から最高栄誉賞を受けている。

花蓮女中90周年生日快樂

漢語舊校歌 老學姐頻拭淚

表揚四位日治時期榮譽校友 其中三名日籍及眷屬特來花參加

更生日報
中華民國歷106年5月14日

二、創立九十周年記念式典

四月三十日、卒業生や教育関係者、全校生徒、地元の名士が集い、盛大に記念式典が開催された。

日本から日籍校友（日本国籍の卒業生）が三名、九十五歳が一名、九十歳二名の卒業生が参列。同校の合唱部が日本統治時代の花蓮高女の校歌「み空に仰ぐ 山脈

の色は常世の春方【はるべ】にて 千里よせくる黒潮の調べも高き新天地」を見事な日本語で合唱、臨席の日籍卒業生は感涙にむせび、流れる涙を抑えきれなかった。

参列した日籍校友を代表し筆者が祝辞を述べた。

「私の母、吉村美恵子は花蓮で生まれ、花蓮で育ちました。（享年八十歳、一九九八年没）母は花蓮港小学校（第二十一回生）から花蓮港高等女学校に

台湾花蓮市
花蓮高等女学校創立90周年



母 吉村美恵子の「卒業証書」と「成績優秀賞」を持参、85年振りに花蓮に帰る

入学（第五期生）し昭和十年三月に卒業しています。生前の母の思い出話は常に「花蓮高女」でありました。

家を出て花岡山の坂を上り切った所に花蓮高女があり、その道の反対側には校長先生や教官の宿舎があり、授業で不明な点がある時は官舎に立ち寄り先生や、先生の奥様が丁寧に教えてくれた。花蓮高女の先生は若く情熱に燃えていたのです。特に神谷秋津先生から多くの薫陶を受け、卒業式典の時に「卒業証書」と共に「成績優秀賞」を授与されました。

終戦後（昭和二十年）引き上げ時には、背囊（リュクサック）一個の帯同しか許されなかったが、母は花蓮高女の卒業証書と成績優秀賞を衣類にシツカリと包み、日本へ持ち帰ってきました。まさに「花蓮高女」は常に母の心の故郷であり青春時代の生きがいであったのでしよう。本日、ここに母の花蓮高女の「卒業証書」と「成績優秀賞」を日本から持参しました。八十五年の時を超え、この花蓮に里帰り致しました。

話は変わり、昨年十一月に私ども夫婦は「花蓮二信」の創立百周年記念祝賀会へ創立者の孫として招待され、千人を超える招待客に挨拶致しました。この模様は現地の新聞やテレビ等でも放映されたそうです。百年の時を超えても井戸を掘った人を大事にする台湾・花蓮の人々に、親子二代に渡り深く心より敬意を表します。こ

ここに母を育ててくれた花蓮高女の更なる発展を日本より祈念しております。」と……。通訳が終わると会場から大きな拍手が湧き起こりました。このように記念式典は台湾と日本の心温まる感動の一日であった。しかし悲しい出来事もあったのです。

三、八田與一氏の銅像破壊事件

台湾に渡る前に悲しい出来事があった、それは日本統治時代に台湾の灌漑設備（烏山頭ダムや用水路建設）を整備し、台湾中部・雲林県、中南部・嘉義県、南部・台南市を大穀倉地帯に変えた日本人土木技師「八田與一（はったよいち）」の銅像の頭部が四月七日に何者かによって切断破壊された事件である。この銅像は八田の功績を讃える為に地元の人々の手で建てられ、戦後永く守られ毎年、八田與一の功績を末永く伝える為に、五月八日の彼の命日には、この銅像を囲って盛大なる慰霊祭が開催されてきたのだ。

その後、犯人（中国との統一を主張する政治団体の一員、元台北市議会議員ら）が警察当局により逮捕された。銅像が損壊されたことで、慰霊祭の開催が危ぶまれていたが、台南市当局を始め関係者の懸命なる修復（奇美博物館が所有していたレプリカ胸像により修復）により無事、前日七日に除幕式が行われ、例年の如く盛大に慰霊祭が開催された。

除幕式には、台南市の頼清徳市長、金沢市から山野之義市長、八田氏の孫にあたる八田修一ご夫妻らが、約五十名が参列した。孫の八田修一氏は「祖父の銅像が短期間で修復されたので驚いた、今回は銅像の為ではなく、台湾と日本の友情が損なわれていないかを確かめるためにやってきた」と話した。頼・台南市長は「友情は試練に耐えてこそ、本当の友情だと強調、台湾と日本の友情は変わらないばかりでなく、さらに良くなるはずだ」と話した。（中央通信社報道より）

わすれじ

最近の国際情勢は経済問題やテロ問題で、世界各国に暗い影を投げかけている。百年の時を超えても井戸を掘ってくれた人を大事にしてくれる台湾と日本との友好的な関係、このような民間ベースの友好関係が世界各国に拡がることを期待したい。

吉村和就代母出席 捐贈三萬日圓



吉村和就代母出席 捐贈三萬日圓

（記者小堀ノ博）
花蓮高女の同窓会「花女」は、今年に在日台湾青年海外交流協会（JICA）より、三萬日圓の義捐金を受託し、同窓会を通じて、花蓮高女の同窓会に寄付した。この義捐金は、同窓会が主催する「花女」の活動に活用される。同窓会は、花蓮高女の同窓生を中心に、台湾と日本の友好関係を促進することを目的として活動している。この義捐金の寄付は、同窓会にとって大きな励みとなる。同窓会は、今後も台湾と日本の友好関係を促進するために活動していく。同窓会は、花蓮高女の同窓生を中心に、台湾と日本の友好関係を促進することを目的として活動している。この義捐金の寄付は、同窓会にとって大きな励みとなる。同窓会は、今後も台湾と日本の友好関係を促進するために活動していく。

更生日報
中華民國歴106年5月14日